

[成果情報名] ツバキに寄生するヒノキバヤドリギの種子の飛散時期から判断される駆除適期

[要約] ヒノキバヤドリギの種子の飛散は 10 月上旬には始まり 11 月中旬にピークを迎えるため、ヒノキバヤドリギの駆除は種子飛散の始まる 10 月までに行う。また、10 月にツバキの幹に付着した種は翌 3 月に発芽する。

[キーワード] ヒノキバヤドリギ、種子、飛散時期、駆除

[担当] 農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 林業

[分類] 指導

[作成年度] 2017 年度

[背景・ねらい]

五島列島で盛んなツバキ油の生産は主に自生するヤブツバキの種子を原料としているが、近年、ヒノキバヤドリギによるヤブツバキへの被害が拡大している。

半寄生植物であり、葉緑素を含む茎と、水・栄養分の吸収組織である吸器からなっているヒノキバヤドリギは群生すると寄主を弱らせ、枯死に至らせることがある。しかし、その生態や被害対策に関する知見はほとんど無く、登録農薬も存在しない。

ヒノキバヤドリギの効率的な駆除適期を検討するため、その種子の飛散時期を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 種子の飛散は 10 月上旬には始まり、11 月中旬にピークを迎える。その後、種子飛散個数は徐々に減り翌 2 月以降はほとんど見られなくなる (図 1)。
2. ヒノキバヤドリギ 40g あたりの 1 シーズンの種子飛散個数は 1115~1211 個となる。(表 1)
3. 10 月にヒノキバヤドリギの種子 40 個を人為的にヤブツバキの幹に付着させたところ、3 個が発芽し、翌 3 月には吸器の形成が確認できる (図 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. ヒノキバヤドリギの駆除は 8 月の開花後、種子飛散の始まる 10 月上旬までに行う。
2. 本情報は新上五島町津和崎郷に自生しているヤブツバキで、多くのヒノキバヤドリギに寄生されているヤブツバキを 2 本選定し、それぞれ調査木 A・B とした。
その調査木 A・B から 8 月にヒノキバヤドリギが開花した後、2015 年 10 月 7 日から 2016 年 3 月 28 日にかけて 5~16 日おきにヒノキバヤドリギ 1 株を採取し、屋内の調査箱内に静置し、次の採取日までの期間内の種子の飛散個数を計測した。
それぞれの調査木から採取したヒノキバヤドリギはそれぞれ大きさが異なるため、あらかじめ重量を計測しておき、図 1、表 1 は種子飛散の個数をヒノキバヤドリギ 40 g あたりと調整した。
3. 調査期間の後半では既に種子が飛散しているヒノキバヤドリギであっても調査対象としている。
4. 新上五島町内で採取したヒノキバヤドリギの種子を 2014 年 10 月 23 日に 10 個ずつ計 40 個、同町内で育苗したヤブツバキの苗 4 本に人為的に付着させ、その後の経過を観察した。

[具体的データ]

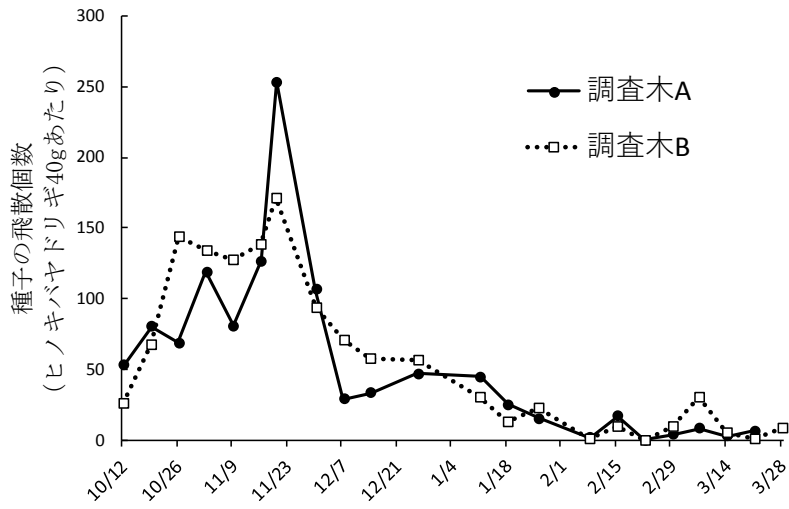


図1. ヒノキバヤドリギの種子飛散個数と時期 (2015年度)

表1. ヒノキバヤドリギの種子飛散数 (個/40gあたり)

調査月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調査木A	201	684	107	84	22	17	1115
調査木B	237	663	184	64	21	42	1211

表2. ヒノキバヤドリギの発芽数

試験木 No.	種子の 付着数	発芽数
①	10	1
②	10	1
③	10	1
④	10	0



図2. ヒノキバヤドリギ



図3. ヒノキバヤドリギの発芽状況 (2015年3月9日)

[その他]

研究課題名：ツバキ振興対策事業

予算区分：県単

研究期間：2013年度～2017年度

研究担当者：柳本和哉、田嶋幸一